

第3学年A組 道徳科学習指導案

場 所 松島中学校 3年A組教室
 授業者 教諭 津田 恭子 (T1)
 教諭 上田 幸裕 (T2)

1 主題名 よりよく生きる D(22) よりよく生きる喜び

2 教材名 「祖父の涙」(熊本地震関連教材「つなぐ」)

3 主題について

(1) ねらいとする内容項目(価値)について

内容項目D(22)は、「人間には自らの弱さや醜さを克服する強さや気高く生きようとする心があることを理解し、人間として生きることの喜びを見いだすこと」を内容としている。「気高く生きようとする心」とは、自己の良心に従って人間性に外れずに生きようとする心である。この心には、自己の弱さや醜さに向き合うことがなければ、気づくことができない。人間の強さと気高さは、弱さと醜さと決して離れているわけではなく、言わば表裏の関係である。ここで言う人間としての生きる喜びとは、単に自己満足ではなく、人間としての誇りや深い人間愛でもあり、崇高な人生を目指し、同じ人間として共に生きていくことへの深い喜びでもある。

中学生の時期は、人間が内に弱さや醜さをもつと同時に、強さや気高さを併せてもつことを理解することができるようになってくる。そして学年が上がるにつれて、崇高な人生を送りたいという人間のもつ気高さを追い求める心が強くなる。一方で、自分に自信が持てずに劣等感にさいなまれたり、人を妬み、恨み、羨ましく思ったりすることもある。したがって、指導に当たっては、まず、自分だけが弱いのではないということに気付かせることが大切である。弱い自分と気高さの対比に終わることなく、自らを奮い立たせ、誇りある生き方に近づけるということに目を向けられるようにする必要がある。

自分の弱さを強さに、醜さを気高さに変えられるという確かな自信をもち、よりよく生きる喜びを見いださせることのできるような生徒を育成したいと考え、本主題を設定した。

(2) 生徒の実態について(男子15名 女子11名 計26名)

本学級の生徒は、明るく元気で友だち思いの生徒が多い。一方で、自分の興味のあることや価値を見いだしているものに対しては意欲的に取り組めるが、関心の向かないことに対してはすぐにあきらめる傾向にあり、じっくり自分の考えをまとめたり、発表したりすることが苦手な生徒もいる。本主題にせまるにあたり、道徳の学習及び本時の内容項目D(22)に関する意識調査の結果は以下の通りである。(25名回答)

質問事項	とても	そう	あまり	全く
①道徳の学習が好きである。	4	14	5	2
②道徳の学習で学んだことを日々の生活の中に生かそうと思っている。	6	15	3	1
③自分は弱いと感じたことがある。	(はい) 20		(いいえ) 5	
具体的にどんな時に感じたか。	テスト勉強前。試合の前。失敗した時。人が優れていると感じた時。後輩のほうがうまいと感じた時。だれかがけんかしたときに中立の立場になった時。等			
④自分の弱さを克服し、やりとげようとしたことがある。	(はい) 14		(いいえ) 11	
どんなことを克服しようとしたか。	自分にできることを探した。あきらめずに解いてみる。次は負けないように本気でやった。陸上とかしようと決めたことをがんばった。憧れの背中を追いかけた。等			
なぜ、克服しようとしたか。	成績をあげたいから。人に頼りた			

	くなかったから。少しでも手伝いたかったから。このままじゃ嫌だから。自分が嫌いになりそうだから。等			
⑤今の自分と向き合うことができているか。	3	14	7	1
⑥より良く生きたいと思う。	15	8	1	1

道徳の学習で学んだことを日々の生活に生かそうという意識のある生徒が多く、考えたことを実践しようとする意欲が高い。これまでの経験を振り返って、自分の弱さを見つめ、克服しようとする経験をしている生徒が半数ほどいるが、克服したい気持ちはあるものの、逃げてしまう自分と向き合うことができないままの生徒も多くいる。登場人物の心の揺れと自分とを重ねさせることで、誰もが弱い気持ちになることに気づかせ、「このままではいけない」という気持ちから、自分を奮い立たせより良く生きようとする意欲を育てたい。

(3) 教材について

本教材は、「熊本地震」という未曾有の災害を経験した家族の姿がモチーフとなっており、震災直後、その被害の大きさからくる絶望感の中で自暴自棄になっていた主人公が、祖父の言葉で自己を見つめ直し、後悔のない人生を送るために今できることを一生懸命やっていきたいと決意する姿を描いたものである。そのような主人公の姿から、自分の弱さと向き合い、それを乗り越えてよりよく生きていこうとする意欲を育てるのに適した教材である。

(4) 指導に当たって

① 本校研究主題との関連

本校研究主題

根拠をもとに正しく判断し、主体的に行動する生徒の育成
～ つながりを大切にする「まっしま学習」の実践を通して ～

仮説 1

教科において、防災教育の視点を踏まえた授業実践を行い続けることで防災意識が高まり、生徒がより正しい知識や判断力、主体的に行動する力を身に付けることができるであろう。

本単元における研究主題との関わりは、以下の通りである。

ア これまでの防災学習につなげる授業とする。

- ・日本で起こっている災害について、いつどこで起こるか分からないことなのだ自分事として捉えられる問いかけを行う。
- ・これまでに行った防災学習に関わることを想起させるような発問を心がける。
- ・熊本地震の写真を提示し、必要に応じて補足説明をする。その際は事前にアンケートをとり、生徒の心理面に配慮する。

イ カリキュラム・マネジメントの視点から授業を設計する。

- ・これまで各教科等で学んできた内容を横断的な視点でつなげるために、熊本地震関連教材「つなぐ」を活用しながら、自分は何をしていくのかについてじっくり考えさせる。

ウ 「まっしま学習」を充実させる授業とする。

- ・「まず準備」では、ねらいとする価値への方向付けをするために、同じ中学生という立場から「より良く生きるとは」という本時の課題の意味を捉えさせる。
- ・「つかもうめあて」では、教材の内容をわかりやすく生徒に把握させるために、挿絵やキーワードを提示する。また、自暴自棄になっていた僕と自分を重ね合わせ、どんな人にも投げ出したいときがあることに気付かせる。
- ・「しっかり考動」では、生徒のつぶやきを大事にし、認めたり問い返したりしながら、価値に迫る。また、アンケートの結果を提示し、これまでの自分を振り返り、これからどのように行動したいのかについてじっくり考えさせる。
- ・「まとめよう」では、人間の弱さや気高さを信じ生きることについての作文を聞いて、余韻を残して終わらせる。

② 人権が尊重される授業作りの視点から

教材への気づきを出し合いながら、情報を共有し、考えを深められるような班活動を取り入れた授業を展開する。(自己存在感)

他者の意見にしっかりと耳を傾け、まずは肯定したうえで自らの意見を述べられるような話し合い活動を行うよう指導する。(共感的人間理解)

4 各教科との関連

学期	特別活動・学校行事	各教科	道徳の時間	防災学習
1 学期	入学式	[理科]生命の連続性	D(22) 信念をつらぬいて生きる 「背番号15が歩んだ道」	[行事] 避難訓練
	生徒総会 体育大会			防災 プチ学習
	中体連大会	[社会]現代社会の見方や考え方		[朝読書]『いつか伝えたい』 (熊本地震関連教材「つなぐ」)
2 学期	進路相談	[英語]A Mother's Lullaby	D(19)いのちを考える① 「あなたはすごい力で生まれてきた」	[道徳]『屋根シート』 (熊本地震関連教材「つなぐ」)
	人権学習 性に関する学習			[行事] 避難訓練 (抜き打ち形式)
	高校体験入学			[生徒会] 小中合同防災会議
2 学期	第1回共通テスト	[音楽]響き合う歌声	D(19)いのちを考える② 「くちびるに歌をもて」	[行事] 総合防災訓練
	郡市陸上大会	[家庭]これからの私と家族		
	文化祭 部会音楽会 郡市駅伝大会	[社会] 地方自治と私たち	D(21)神秘の世界へ 「ハッチを開けて知らない世界へ」	
3 学期	第2回共通テスト	[英語]Striving for a Better World	D(22) よりよく生きる喜び 教材名「祖父の涙」	[道徳]『祖父の涙』 (熊本地震関連教材「つなぐ」)
	郡市音楽会			
	進路相談	[体育]球技		[朝読書]『正念場!!だモン』 (熊本地震関連教材「つなぐ」)
3 学期	性に関する学習 人権学習			
	入試・進路決定 卒業式		D(20) 恩恵に感謝して 「よみがえれ日本海！」	

5 本時の学習

(1) ねらい

自暴自棄になった僕が、祖父の涙を見て自分の弱さに向き合い、克服しようとする姿を通して、人間としてより良く生きようとする意欲を高める。

(2) 本時の評価

評価1 自分の弱さに向き合い、良心に従い克服しようとする中で、人間として生きる喜びにつながることに気づいている。(ワークシート)

評価2 「喜びを感じられる生き方」ということについて、これまでの自分を振り返りながら考えている。(ワークシート、発表)

(3) 展開 (まつしまカード・・・ま：まず準備、つ：つかもうめあて、し：しっかり考動、ま：まとめよう)

過程	学習活動	予想される生徒の反応(○)と指導上の留意点(・)	備考
き づ く (5分)	ま 1. 熊本地震を振り返る。 喜びを感じられる生き方とは。	・読み聞かせ教材の冒頭を見せ、当時の状況を思い出させる。(T2) ・熊本地震を通して、同じ中学生がどういう気持ちで過ごしていったのかを考えさせ、教材への関心を高める。(T1)	読み聞かせ教材
と ら え る (30分)	2. 教材を読んで考える。 (1) 自暴自棄になった僕の思いを考える。 車の中で携帯をいじっていた僕はどんな気持ちだったのだろう。 し (2) 僕の心境の変化について考える。 なぜ祖父の顔を見ることができなかったのだろう。 小学生や大学生の姿を見て、どんな気持ちになっただろう。 おばあさんに「ありがとう。」と言われた時、以前とは違う、どんな自分に気づいたのだろう。	・立ち止まり読みをしながら、命が助かった状況を把握させ、僕の気持ちを理解させる。(T1) ○片付けるのはもうめんどくさい。 ○これからどうなるのか不安でいっぱい。 ・僕が自暴自棄になっていた状況と、自分の経験とを重ね合わせられる問いかけをする。(T1) ・僕の心の動きに注目させることで、人間誰しも弱い部分があることを知り、その上でどう生きていくのかを考えさせる。(T1) ○後ろめたかったから。自分はダメだと思ったから。祖父に怒られたから。 ・「外に飛び出した僕はその後どんなことを考えただろう。」とさらに問いかけることで、ねらいの価値に気づかせる。(T1) ・生徒から出た意見をキーワードでまとめ、「みつめる」の場面で、自分のことを振り返る際の一助とする。(T2)	資料の挿絵等
み つ め る (10分)	ま 3. 自分の生活を振り返って考える。	・写真を見せることで場面を想起しやすくする。 ○自分も人のためにがんばろう。自分がやろうとしていることは間違いない。 ・自暴自棄になっていた自分とボランティアをした後の自分を比較させることで、価値にせまる。(T1) ○自分の弱さから逃げず、このままではいけないと気づいた。投げやりの自分ではなく、自分が行動したことに胸を張っている。	写真 ワークシート
あ た た め る (5分)	4. 「後悔のない人生」について考える。	・主人公と同じような気持ちになった経験に気づかせ、今の自分を振り返りながら、これからどうしていきたいかを考えさせる。(T2) ○今までは逃げてきたけれど、これからは挑戦する。目標に向かって、自分に厳しく頑張る。 ・生徒の発表の時間を取り、お互いを認める雰囲気をつくる。(T1) 評価2 ・人間の弱さや気高さを信じ生きることについての作文を聞いて、余韻を残して終わる。(T1)	ワークシート 生徒作文